

福井ゆかりの刀剣

今回の展示で取り上げた刀剣以外にも、福井にゆかりのある刀剣が「刀剣乱舞」に登場しています。このパネルではその一部を紹介します。

豊臣秀吉所有の刀剣「一期一振」

豊臣秀吉は福井ゆかりの人物の一人です。織田信長の家臣として1570年（元亀元）の^{かねがさき}金ヶ崎の戦いに参戦していますし、1583年（天正11）には北ノ庄城主でもあった柴田勝家と北ノ庄で争っています。また、側室の一人も福井にゆかりのある^{あざい}浅井三姉妹の一人である^{ちゃちゃ}茶々（^{よどどの}淀殿）です。ちなみに、茶々の妹の初（^{はつ}常高院）の墓は常高寺（小浜市）にあります。

秀吉も天下人の一人であったため、様々な刀剣を所持していたことで知られます。その内の一つが「^{いちごひとふり}一期一振」です。鎌倉時代の刀工^{あわたくち}栗田口（^{とうしろう}藤四郎）^{よしみつ}吉光が一生に一振しか製作しなかった太刀であったことからこの名がつけられたといわれます（ただし、吉光が製作した太刀は他にもあることがわかってきています）。

一説には、秀吉が所持する以前は越前の朝倉氏が所持していたともいわれますが、出所については諸説あり、よくわかりません。

この刀は後に1615年（慶長20）の大坂夏の陣で大坂城が炎上し、大坂城に残されていた他の刀と一緒に焼けてしまいます。その後、福井ゆかりの刀工である越前（^{しもさか}下坂）^{やすつく}康継がこの刀の焼き直しを行っています。この時、康継は^{りさい}罹災した他の刀の焼き直しも行っています。

康継が製作した刀は^{なんばん}南蛮鉄（外国から日本に輸入された鉄）を用い、作風は徳川家康好みの渋さが見られます。また、江戸新刀の開祖とされ、江戸時代初期の江戸の刀工には福井出身者が多かったといわれます。その理由は康継が弟子の育成に力を入れていたからと考えられています。

その他にも結城秀康の父である徳川家康、秀康の子である^{ただなお}松平忠直、幕末に福井藩の人びとと交流のあった坂本龍馬など、福井ゆかりの人物は様々な刀剣を所有していました。



金ヶ崎城跡（敦賀市）



北ノ庄城址（福井市）



常高寺（小浜市）

福井に所在する主な城

今回の展示で取り上げた城以外にも、福井には城が各地に所在していました。このパネルではその一部を紹介します。

現在（2017年8月）のところ、福井の城で「御城プロジェクト：RE」に登場しているのは北ノ庄城・福井城・一乗谷城・丸岡城・津留賀城・金ヶ崎城の6城だけです。まだ登場していない福井の城もいずれ登場するかもしれません。

1. 大野城（2017年（平成29）に続日本100名城に選ばれました）

大野城は大野盆地にある^{かめやま}亀山に築かれた^{ひらやまじろ}平山城です。1575年（天正3）頃、織田信長の家臣^{かなもりながちか}金森長近が築城しました。

1775年（安永4）に本丸が焼失、95年（寛政7）に再建されましたが、廃藩後に城の建造物は取り壊され、石垣のみが残りました。現在の天守は1968年（昭和43）に再建されたものです。

現在では特定の条件が重なると、^{うんかい}雲海に包まれることで知られ、「天空の城」とも呼ばれています。



雲海に包まれた大野城（大野市）

2. 国吉城（2017年（平成29）に続日本100名城に選ばれました）

1556年（弘治2）に若狭武田氏の家臣^{あわやかつひさ}粟屋勝久によって築かれた^{やまじろ}山城です。63年（永禄6）に朝倉氏の軍勢が攻め寄せましたがこれを撃退しました。また、70年（元亀元）は越前に侵攻した織田信長の軍勢が入城しています。

83年（天正11）に城主となった豊臣（羽柴）秀吉の家臣^{さだみつ}木村定光は城の改修と町の整備に着手し、86年（天正14）に^{さがき}佐柿の町を開きました。

1634年（寛永11）に小浜城主となった酒井忠勝^{ただかつ}は、国吉城に替わって新たに町奉行所をつくり、三方郡と佐柿の町を治めました。佐柿はその後^{たんご}丹後街道（越前国敦賀から丹後国宮津に^{みやづ}通じていた街道）の^{しゆくば}宿場町として栄えました。



若狭国吉城歴史資料館（美浜町）

その他にも、福井には小浜城や勝山城、^{げんばお}玄蕃尾城や^{そまやま}杣山城などたくさん城が所在していました。

福井県文書館所蔵の刀剣や城に関連する資料

福井県文書館には、今回展示した資料以外にも刀剣や城に関する資料が所蔵されています。このパネルではその一部を紹介します。

1. 「(刃文一覧の写)」 1850年(嘉永3)6月2日 三上豊尚家文書(当館蔵) X0149-00034

刀剣の刃文^{はもん}を写した資料です。資料をよく見ると「新藤五国光」^{しんとうごくにみつ}「鎌倉行光」^{ゆきみつ}「光忠」^{みつただ}「一文字」^{いちもんじ}など、名だたる刀工の名をみつけることができます。



2. 「熊本旧城天守台之図」 1892年(明治25)1月9日 勝見宗左衛門家文書(当館蔵) B0037-00625

明治時代に作成された、熊本城の絵図です。熊本城の天守は1877年(明治10)の西南戦争の際に焼失していますが、その後も往時の姿をしのぶためにこのような絵図が作成されていたようです。



これらの資料を含めて、刀剣や城に関する様々な資料が閲覧・複写可能です。詳しい利用方法についてはカウンターでお問い合わせください。